



# 江川地域づくり計画

地域みんなで 安全安心な 明るく住みよい 江川の里づくりを!  
～ ことおこし 人おこし 物おこし ～

江川地域づくり協議会



## 江川地域づくり計画の策定にあたって

江川地域づくり協議会は、平成 17 年 10 月 1 日の新佐用町合併とともに、昭和 57 年以来 24 年の長きにわたり親しまれた公民館江川分館を改組し、江川地域づくり協議会として、翌年の 4 月に設立し出発しました。

『安全で安心な地域』『明るく住みよい地域』を目指した活動为目标に皆様のご支援ご協力のもと、いろいろな取り組みにチャレンジしながら今日に至っています。なかでも昨年襲った未曾有の大水害の教訓から、集落自治組織を単位に、自分たちの地域は自分たちが守る地域連携・連帯感(共助)と、それに加え公助の必要性が重要であることが改めてわかりました。

それには、一番身近なその地域に合った課題等、現在から将来も見据える中で目標(行動計画)づくりが必要となっています。

過去から現在、現在から未来へと江川の地域特性を活かしながら、地域みんなで楽しみながらつくるもの・・・を土台に「江川に住んで良かった」と誰もが誇れるような安全で安心な地域(里)づくりを進めるために、将来目標も共有しながら、その目標に向かって実践すべき羅針盤となるものが本計画の趣旨であると捉えて策定いたしました。

20 年 12 月の計画策定の勉強会から 22 年 8 月の計画案の承認まで、地域づくり計画委員会の皆様をはじめ、多くの江川地域の皆様のご支援、ご協力に厚くお礼と感謝を申し上げます。

今後、柔軟に社会の推移、時代背景等も考慮しつつ、町行政と調整を図りながら本計画が実のあるものになるよう皆様の期待と希望に一步ずつ応えていけるよう関係者一同努力を惜しまないものです。

皆様には、これを機会に江川地域づくり協議会に対して、更なるご教示ご示唆等賜れば大変幸甚であります。

平成 22 年 12 月

会長(自治会評議会長) 木村政照

# 目 次

江川地域づくり計画策定の趣旨	1
地域全体の概要	1
江川地域の現状と課題	1
江川地域づくり協議会の構成	2
将来の目標とテーマ	3
基本目標	3
1. 自然の魅力あふれる里づくり	4
2. 安全で安心して暮らせる里づくり	5
3. みんなで支え合う健康と福祉の里づくり	6
4. 快適で訪れてみたくなる里づくり	7
5. ふるさとの誇りと豊かな心を育む里づくり	8
6. 地域の特性を生かした活気ある里づくり	9
【参考資料1】地域づくり計画委員会ワーキングでの意見一覧	11
【参考資料2】江川地域づくり計画策定の経緯	21
【参考資料3】地域づくり計画委員会委員名簿	22
【参考資料4】取り組み事業の状況	25

## 江川地域づくり計画策定の趣旨

平成 17 年 10 月 1 日の新佐用町の発足により、江川小学校区に江川地域づくり協議会を設置しました。江川地域では、少子高齢化により急激に過疎化が進行しており、これにより地域力の低下、安全安心社会の確保、地域のつながりなどの課題が発生しています。これらの課題を解決し、江川地域に住むみんなが将来にわたって安全で安心して、楽しく生きがいを持って暮らせる江川の里づくりを進めるために、地域の将来像を明らかにし、その目標に向かって進んで行く指針として、「江川地域づくり計画」を策定します。

## 地域全体の概要

江川地域は、佐用町の北西部に位置し、北及び西は岡山県美作市に隣接しています。

江川地域づくり協議会は江川小学校区の豊福、平谷、仁方、福澤、西河内、甲大木谷、乙大木谷、淀、末包、東中山、大島の 11 自治会で構成され、人口 1,219 人 422 世帯(平成 22 年 3 月末現在:住民基本台帳調)があります。地域の高齢化率は 37.5%で町全体の 31.8%より 5.7 ポイント高くなっており、高齢化が進んでいます。

交通環境に関しては、佐用町中心部と岡山県を結ぶ県道下庄佐用線が地域を縦断しており、これを中心にして谷ごとに県道や町道が楓の葉状に広がっています。また、地域の北部には平成 22 年 3 月に開通した鳥取自動車道が通過しています。公共交通に関しては、佐用と東中山を結ぶ路線バスがありましたが、平成 21 年 10 月末で休止となり、公共交通が一切ないのが現状です。

江川地域の主要産業は農林業が中心であり、北部の畜産業や栗などの栽培が盛んですが、近年では農業後継者不足や獣害により耕作放棄された農地の荒廃が進んでいます。

播磨風土記にも出てくる江川は、非常に古い文化を有しており、歴史的資源として宮本武蔵が通ったとされる釜坂峠や末包の磨崖仏、平谷の古墓群、江川神社、淀の観音山の石仏、竜田大明神、神庭神社、安倍晴明塚、芦屋道満塚などが点在しています。

## 江川地域の現状と課題

我が国では、長期にわたる低成長社会や少子高齢化が到来するなど、あらゆる面で厳しい社会情勢になっています。それは江川地域においても顕著に現れています。

そのような中、江川に住む私たちは、この現実を知り、将来のために今できることから取り組みをはじめることが必要です。

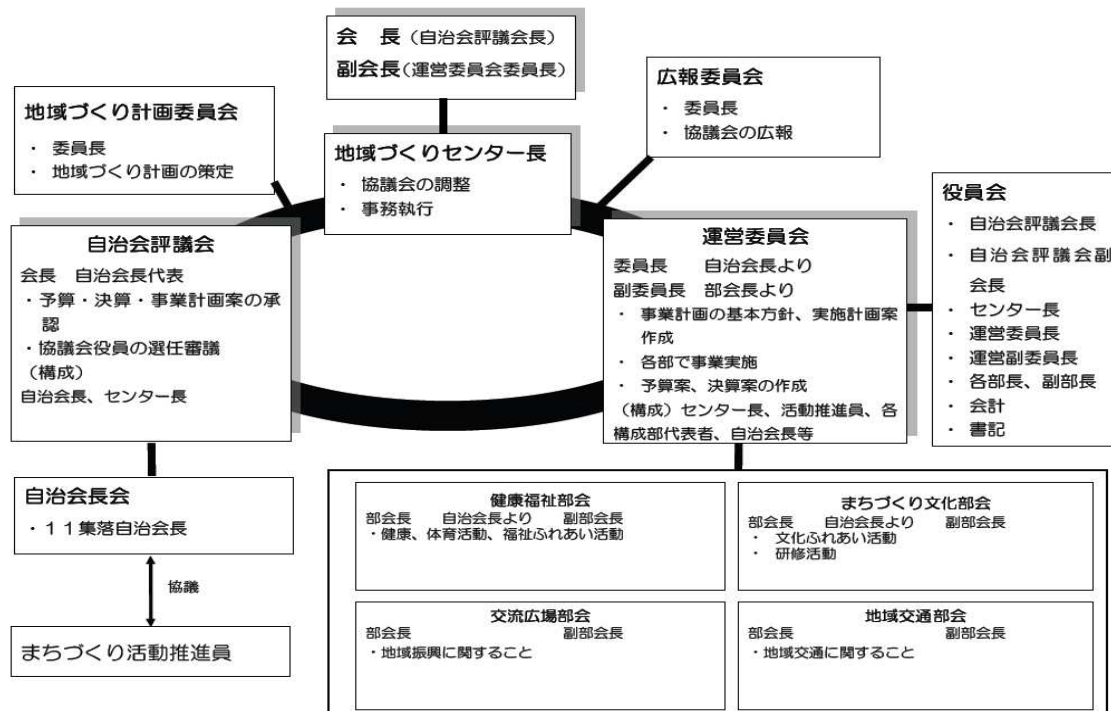


表1 江川地域の人口集計

集落名	総人口		65歳以上		世帯数
	人数	%	人数	%	
豊福	178	14.6	69	38.8	70
平谷	90	7.4	30	33.3	32
仁方	123	10.1	47	38.2	42
福澤	239	19.6	82	34.3	84
西河内	61	5.0	21	34.4	23
甲大木谷	132	10.8	45	34.1	38
乙大木谷	45	3.7	26	57.8	18
淀	74	6.1	44	59.5	31
末包	72	5.9	26	36.1	23
東中山	57	4.7	21	36.8	16
大畠	148	12.1	46	31.1	45
計	1,219		457	37.5	422

(平成 22 年 3 月 31 日現在:住民基本台帳調べ)

**江川地域づくり協議会の構成**





将来の目標とテーマ

基本理念

地域みんなで 安全安心な 明るく住みよい 江川の里づくりを！  
～ ことおこし 人おこし 物おこし ～

基本姿勢

江川の恵まれた地域資源(自然環境、歴史文化、農産物、土地など)や人材を活用し、活力や魅力あふれる地域にしていくため、地域住民の参画による地域づくりを進めます。

将来像

子どもから高齢者までが良好な自然の中で共に助け合い、安全で、安心して楽しく暮らせることができ、“この江川に住んで良かった”“いつまでもこの江川に住み続けたい”と誰もが思える地域を目指します。

基本目標

より良い江川地域づくりの思いのもと、基本理念と将来像を実現していくために、6つの基本目標をさだめます。



① 自然の魅力あふれる里づくり



② 安全で安心して暮らせる里づくり



③ みんなで支え合う健康と福祉の里づくり



④ 快適で訪れてみたくなる里づくり



⑤ ふるさとの誇りと豊かな心を育む里づくり



⑥ 地域の特性を生かした活気ある里づくり

## 1. 自然の魅力あふれる里づくり

### 【現状と課題】

農林業従事者の高齢化と後継者不足、不採算性による産業の衰退により、山林は荒れて大雨時には土砂災害が発生しやすくなっています。また、田畑は耕作放棄地が年々増加していく中で原野化し、その結果、自然環境や農村景観が損なわれています。近年では鹿や猪など獣害による農作物の被害も深刻化しています。

### 【方針】

江川の最大の財産である美しい山並みや農村風景、歴史文化景観など江川の良さを再認識し、江川を愛する心を育みます。そして、豊かな環境を保全する取り組みや循環型社会の構築を進め、次の世代に継承していきます。

### 【事業計画】

#### <既に取り組んでおり引き続き継続する事業>

- ・家庭ごみの自家焼却(野焼き)をしない
- ・棚田景観の管理と保全

#### <近年中に取り組む事業>

- ・歴史資源の保存と整備
- ・美しい農村風景の創造(「花いっぱい運動」事業として河川沿い・道路端・歴史資源及び公園周辺や休耕田などへの景観作物の植栽)
- ・豪雨災害からの自然景観の復活(谷川の堆積土砂及び倒木の処理)
- ・人工林の間伐等森林保育の推進
- ・ごみの減量と分別の取り組み

#### <将来的に取り組む事業>

- ・里山の整備
- ・親水空間の整備



菜の花畑 (豊福)



## 2. 安全で安心して暮らせる里づくり

### 【現状と課題】

地域の全域で高齢者のみの世帯や高齢者の一人暮らし家庭が増えており、老々介護や高齢者の孤独死などが地域の問題になっています。特に、火災・風水害・地震など災害時の対応、悪徳商法や空き巣など犯罪への対応、交通事故防止など、地域内の防災・防犯面において不安があります。同時に、高齢化の進行による限界集落が現実のものとなり、自治会機能維持のため自治会間の共助体制が必要となっています。

また、全国的に子どもたちへの犯罪が後を絶たない中において、地域の子どもたちを地域の住民みんなで守っていくことが必要です。

### 【方針】

安全・安心は江川地域づくり協議会が掲げている最大のテーマです。自分の命は自分で守るための自助努力に加え、自分たちの地域は自分たちで守るといった共助意識の向上を図り、子どもから高齢者までみんなが安全で安心して生活できる、明るく住みやすい江川の里をつくります。

### 【事業計画】

#### <既に取り組んでおり引き続き継続する事業>

- ・防災・防犯事業(防災防犯講演会、訓練等の開催)
- ・登下校時など子どもたちへの声かけ運動
- ・地域防災計画の策定(集落単位の詳細な避難場所・避難経路の設定・確認とマップの作成)
- ・「訪問販売お断り」表示板等の設置の啓発
- ・防災無線や有線放送を活用した防犯情報の発信
- ・救援体制の確立(要援護者対策、炊き出し)
- ・防災・防犯・火災予防意識の高揚と啓発
- ・街路灯の増設

#### <近年中に取り組む事業>

- ・高齢者の見守り活動(ウォーキング・散歩時)
- ・交通事故防止運動(免許証自主返納の推進)

#### <将来的に取り組む事業>

- ・地域共助体制の確立と地域防災計画の樹立



地域防災講習会（江川文化センター）

### 3. みんなで支え合う健康と福祉の里づくり

#### 【現状と課題】

高齢化が進行する中、その対応として「元気な高齢者」づくりを行い、高齢者の社会進出を積極化することで、生きがいきりの創造を目指す必要があります。特に平時からの健康管理が大切で、定期健診の受診などが必要です。また、デイサービスや福祉施設等介護施設の不足が心配されます。

また、高齢化に伴い、自分で車を運転出来ない人が多くなる事が予想されます。特に、平成21年10月末に路線バスが休止となり、交通困難者にとって通院や買い物等に必要な生活交通の確保が必要とされています。

#### 【方針】

地域の住民すべてが健康的な生活を送るために、地域福祉体制の確立を図ります。少子高齢化がますます進行して人口が減少し、地域のつながりも薄れてきています。地域のすべての住民が交流を図りともに支え合いながら、元気で安心して暮らせる地域づくりを進めます。

#### 【事業計画】

##### <既に取り組んでおり引き続き継続する事業>

- ・各種スポーツの実践(スポーツクラブ 21 えかわへの参画)
- ・歩け歩け運動の推進、ラジオ体操会への参加
- ・江川独自の地域交通の実証運行の実施
- ・高齢者サポート・たまり場事業・生活改善事業の実施(敬老会の実施・ふれあい喫茶等)
- ・「3世代の語りべ」による世代間交流会の実施
- ・定期健診の受診督励

##### <近年中に取り組む事業>

- ・高齢者ふれあい活動や見守り活動の実施

##### <将来的に取り組む事業>

- ・江川ふれあいホールの更なる活用(ふれあい子ども教室、放課後広場等)
- ・元気な高齢者の社会進出(人材と経験を活かせる場づくり)
- ・地域による学童保育・託児所・託老事業の検討



保育園児と高齢者のふれあい活動  
(江川文化センター)

#### 4. 快適で訪れてみたくなる里づくり

##### 【現状と課題】

少子高齢化の急速な進行は、若者が働く場所を求めて大学等へ進学すると都会に残ることが主たる要因であると考えられます。定住促進のためには働く場所の確保や育児・教育など、快適で魅力的な定住環境が必要です。また、地域の活性化のためには、交流人口の増加も考えられます。

数年前から棚田交流事業(ボランティア・オーナー制度)により交流人口の増加を図っていますが、参加者が減る傾向にあります。これは、参加者側の原因だけでなく、主催者(地域住民)が負担を感じているということにも起因していることから、交流事業のあり方を見直す必要があります。

##### 【方針】

農地や山地を活用したコミュニティビジネスや地域の起業家を積極的に支援し、雇用や就業の場の確保に努めます。また、継続的な交流事業による交流人口の増加を図り、地域の活力を維持、増進します。

##### 【事業計画】

###### <既に取り組んでおり引き続き継続する事業>

- ・江川の宝を活かした里づくり事業の実施  
(豊かな歴史資産源・自然資源を活用したハイキングコースの設定と拠点づくり)

###### <近年中に取り組む事業>

- ・都市住民との交流事業の実施(地域の活性化)
- ・イベントや地域の情報の発信(インターネットの活用)

###### <将来的に取り組む事業>

- ・地域の自然素材を利用した薬膳料理事業の研究
- ・観光資源の施設の整備(観光客向け施設整備)
- ・定住環境の整備
- ・空き家、休耕田、特産品等を活用した体験型交流事業の検討



江川の宝さがし薬草ハイキング(甲大木谷)



## 5. ふるさとの誇りと豊かな心を育む里づくり

### 【現状と課題】

少子化はますます進行し、小学校では複式学級になっています。同世代の子ども同士で遊べない状況であり、地域内でも教育のあり方を検討する必要があります。

若者の減少や、生活圏の拡大により地域に対する関心・愛着の薄れから、地域伝統文化の継承が難しくなっています。

### 【方針】

今日の不安な社会情勢は教育現場でも、いじめ、不登校、安全の問題等が生じ大きな社会問題となっています。地域の将来を担う子どもたちと、地域社会がふれあうことによって子どもの健全育成を図り、また、江川の伝統文化や地域の歴史などを授業に取り入れてもらうなど、ふるさとの良さを伝え、ふるさとを愛する豊かな心を育み、伝統文化の保存と継承を行います。

差別のない心豊かでやさしい地域社会をつくるとともに、生きがいつくりのため、生涯学習を進めます。

地域の食材を使った「食育」を行い、地産地消などの食文化を伝えます。

### 【事業計画】

#### <既に取り組んでおり引き続き継続する事業>

- ・伝統文化の保存と継承
- ・江川ふるさと祭りの開催
- ・生涯学習の実施(高年大学出前講座・人権学習・玉落学園・地域の歴史探究等)
- ・世代間交流の実施(世代間交流サロン、手づくり米クラブ等)

#### <近年中に取り組む事業>

- ・地域内の食文化を取り入れた活動の実施

#### <将来的に取り組む事業>

- ・地域の歴史教育の実施
- ・伝統文化保存会の支援
- ・林間学校、山村留学、体験農業等による都市部の子どもの受け入れ



江川神社御輿（大畠）

## 6. 地域の特性を生かした活気ある里づくり

### 【現状と課題】

農業者の高齢化、後継者不足、農業経営の不採算性、加えて平成21年8月9日に発生した台風9号による大水害等によりさらに休耕田が増加することが予想され、ますます農地の荒廃につながる恐れがあります。地域の基幹産業である農業は米価の下落、担い手の減少、重労働による農業ばなれにより後継者がほとんどありません。そのため、農家のほとんどが兼業で、農業収入に頼れないのが現状です。

また、年々拡大する獣害は耕作意欲をなくし、対策費用も大きいため、耕作放棄される農地も多く、その結果、耕作放棄地の拡大は猪、鹿の被害を大きくするなど、悪循環となっています。もはや農業は産業ではなく保全するものになってきています。

林業は、農業以上に高齢化、不採算性、担い手不足により衰退し、杉、桧などの植林の手入れが出来ず、荒廃が進んでいるのが現状です。

### 【方針】

地域の基幹産業である農業の不振は若年世代の流出を招き、高齢化を一層高めています。そのため、安全安心の付加価値をつけた農産物や、地域の特徴的な農産物をつくり、ブランド化し、情報発信して販売力の強化に努めます。そして、地産地消の取り組みや特産物の販売によって農林業と地域の活性化を進めます。

遊休農地を活用した農業起業家の誘致や、農林業を利用した体験型の交流事業を展開するとともに、地域資産である棚田の保全を全地域で協力して行うことが必要です。

増大する獣被害を軽減する取り組みを進め、耕作意欲を高め耕作放棄田を減らすことが、重要となっています。

### 【事業計画】

#### <既に取り組んでおり引き続き継続する事業>

- ・地域産品の特産品化の支援(生産・研究グループの育成)
- ・江川の宝を活かした里づくり事業(自然の食材の研究と特産品開発の支援)

#### <近年中に取り組むをはじめる事業>

- ・地産地消の推進
- ・山林の保全(獣害被害対策・杉、桧の間伐・里山林整備)





## 基本目標 6. 地域の特性を生かした活気ある里づくり

### <将来的に取り組む事業>

- ・農産物の開発・生産・加工・販売グループの支援
- ・農産物直売所の開設
- ・棚田米のブランド化
- ・栗、ユズ、無花果などの高付加価値
- ・間伐材等を活用した木工品の開発
- ・体験観光農園グループの支援
- ・棚田保全グループの支援(地域全体での活動、棚田オーナー制度の継続等)



休耕田の管理



ほっとえかわ開催風景（江川ふれあいホール）

## 参 考 资 料



【参考資料1】地域づくり計画委員会ワーキングでの意見一覧

分野	意見内容
自然環境	高齢化と過疎により農林業が衰退し、山の荒廃による土砂災害の発生する恐れがある
	田畑が放棄され原野化することにより、猪や鹿による被害が増えている
	集落の高齢化に伴い、耕作放棄地が序々に増えている
	先般の豪雨被害は予想を越える降雨量によるが、山林の荒廃も大きく影響している
	谷川(裏山)からの増水氾濫が多くあった
	先の豪雨被害により谷川などの自然景観が損なわれた。また、これからも二次的に破壊が進む
	地球温暖化により集中豪雨や竜巻が発生する
	資産、資源の保全
	山林は杉や桧を植えたために広葉樹がなくなっている、そのために鳥獣の被害がひどくなっていると思う
	鳥獣の被害が増えている
	イルミネーションはCO2増になる
	間伐材の処理をする必要。危険箇所には砂防工事の実施
	間伐(無料)をしてもらう
	江川川沿いに景観美作物(桜、花木、休耕田にはコスモスなど)を作ると良い
	杉、桧の間伐材の利用方法、いす、ベンチ等を手作りで!
	江川の自然を知る
	各集落でなく江川地域全体で考えていく
	椎茸の原木を切って山を切り開き、鹿猪の住む場所を山奥へ
	豪雨災害で谷川を埋めた土砂、倒木を除去し美しい自然景観を復活させる
	各集落独自で特色のある花を植える
	菜の花を田に植えて景観を良くする
	蓮華草を減反地に植える
	江川の管理道、県道端に花を植えて花の村にする
	11通りの村中あげての「花いっぱい運動」景観美化(又は作物)事業の取り組み
	花を植える運動の啓発、ピラ
	江川の自然資産を調査、学習し、郷土愛を育み保全につなげる
	山に餌となる広葉樹を植えると、鳥獣の被害も少なくなるし自然環境も良くなると思う
	家庭ごみの焼却をやめる
間伐材を利用して、江川の看板をあらゆる所に作る	
つつじ山の造成 菜の花の栽培など景観美化事業を進める	
安全・安心	火事がこわい
	見通しの悪いカーブが多い
	あまり事故は聞かない
	交通安全は守られている
	災害時の高齢者の連絡手段について
	一人暮らしの老人の情報
	自治会長福祉委員の役割
	隣保長さんの役割
	プライバシーの問題
	水の大切さ
	防災情報の集約方法

安全・安心	災害の種類によって訓練・方法・規模を考える。
	災害情報の集約方法
	マニュアルはあまり見ない
	しっかりした組織づくり
	屋間の地域内は高齢者しかいない状況で、生活の安全、安心が心配される
	10年後老人であふれる
	田舎の良さで、よくわかっている
	目印となるものが少ない
	行方不明にならない。
	個人の体験談が現実味がある
	県道沿いがねらわれやすい
	110番の家がわかりにくい
	訪問販売
	空き家の増加
	防火啓発
	お年寄りの運転マナー
	サイン、看板の設置、ランドマーク
	無事故への取り組み
	高齢者同士の声かけ・散歩・ウォーキング・見守り活動
	各集落で1人暮らしの人数と名前を把握しておく
	危険箇所マップの作成と周知徹底
	防災無線は屋内だけでなく、屋外でも聞けるような放送設備をする必要がある
	安全安心活動と文化福祉活動で心豊かな人づくりを
	水の大切さ
	みんなが助け合う、全員で一致
	自身の安全は自分で
	災害時の声かけはうれしい
	共同の新聞受けでわかる
	防災マニュアルの作り直し
	防災マニュアルの考え方、家庭→隣保→集落→地域
	隣保単位での防災活動
	防災パトロール隊を組織
	大きな地区でなく細かく分ける
	防災リーダーの育成。
	女性ボランティアの育成。
	生活防犯と防災意識の高揚を図る
	個人の体験談が現実味がある
	地域全員で見張り番
	火災警報機の設置
	訓練と点検
消防団との連携	
取り締まりに注意	
通学路の除草	
「飛び出し坊や」の看板	



<b>安全・安心</b>	鹿と衝突、けもの道注意看板
	日頃から隣近所の声かけ。
	集落内でのリスト作成
	断水への対応。
	災害別の避難所、約束事
	区毎の組織作り
	危険箇所の周知
	訓練とマニュアルは協議会
	危険箇所に近づかない。
	子供達の登下校の見守りと声かけ運動ビラ配布
	生活安全グループ講演会の開催
	防犯灯を増やす。
	警察の出前講座
	110番の家に目立つ看板
	玄関に「訪問販売お断り」の看板
不審車両のナンバーを控え通報	
老人、子どもの安全声かけ運動	
<b>健康と福祉</b>	高齢化率が高くなっているので集落でも入退院が多くなっている
	検診
	高齢化に伴い、運転免許証の返納者が増えており、より便利な交通手段の確保が課題である
	高齢化が進み車を運転できない人が多くなる。また、路線バスがなくなり、買い物・病院等への足の確保が心配される
	スクールバスに乗るには申請が必要、誰でも乗れない
	さよさよサービスを利用したいが病院の診察日と合わない
	高齢者は病院に行く回数が増えて通院の足に困る
	運転免許証の返納で買い物や病院に行くのが不便になった
	路線バスが休止になり利用出来なくなった
	地域交通バスが必要
	地域バス、人・経済的負担が心配
	事前申し込みが必要、面倒くさい
	さよさよサービスの利用が広まっていない
	タクシーの利用が多い
	地域交通バス運行の詳細が？
	地域交通の運転手もボランティアでなく有料で
	どれだけが利用されるか実態を調査すべき、細部
	買い物は親族の方が調達されている
	必要な方々は病院行きの場合のみでは
	交通が自家用車になっているから（公共交通機関がなくなり）不便
	高齢化が進み高齢者の足の確保が最重点課題である
	一人暮らしの老人が数件あり、孤独死が心配される
	老人ホーム等の入居希望者が始めているが、入居待ちの状態である
	福祉施設のデイサービスに頼っている
一人暮らしの老人が江川で86名あり孤独死が心配される	
老人ホーム等入居待ちの状態である	
高齢、過疎化により、葬儀など集落自治活動が難しくなる	

健康と福祉	高齢者との交流、また、高齢者の出来ないことを助けられないか
	特定健診の受診督促
	さよさよサービス(江川独自)の自宅まで送迎等、サービスの充実と住民の積極的利用
	地域内での交通のあり方を検討し、地域に適合した交通体系を確立する
	生活のサイクルを合わせる事が大切
	高校生の送迎も可
	アンケートを実施する
	共同でタクシーを利用する
	連絡所に常駐の事務員が必要
	利用しないであろう人の理解が必要
	さよさよサービスが毎日運行してもらえるとよい
	地域交通実現
	地域交通実現への調査
	今後の利用率の予想
	現さよさよサービスの比率を上げて、分析
	江川ふれあいホールを活用して、交流・葬儀等を行う
	集落間のコミュニケーションが大事(世間話などで電話や訪問をし、お互いに交流する)
	健康と親睦の機会づくり活動を行う
	幼児、幼稚園児などを集団保育として学童保育、地域で助け合うシステムづくり
	高齢者の老々介護が大変である
	高齢者同士の声かけ・散歩・ウォーキング・見守り活動
	よく分からないが、病院内にある老人ホームに簡単に入所出来れば良い。グループホームもほしい
	高齢者同士の声かけ運動(新聞の有無、カーテンの開閉状態、電話、訪問)
	福祉電話サービスの利用
	江川にもグループホームが出来るとよい
	老人の集合住宅で共同で生活
	介護予防のための高齢者ふれあい活動の実施
	スポーツクラブ 21 えかわ・集落世代間交流球技大会の開催・ラジオ体操大会の開催
	歩こう会の開催・特定健診の受診督促
	年に1回は必ず健康診断を受ける。説明会開催
	現在検討しているのはデマンド(電話の申し込みにより運行する)方式を考えられている
	実行計画案で試験運行し利用者の意向を聞く予定
	利用意向を出していただき実行をお願いしたい
	江川独自でさよさよサービス運行をしてもらおうとよい。毎日運行してもらいたい
	交流広場事業、「地域で行う高齢者サポート・たまり場事業」
	月1回のいきいきサロンで高齢者同士交流をしている
	世代間交流サロンの実施
	ふれあい喫茶の開催
	しめ縄づくりの開催
	地域で行う高齢者サポート・たまり場事業」の実施 (江川ふれあいホール喫茶室)
ふれあい喫茶・しめ縄づくりの開催	
学童との交流「3世代の語りべ・・・」	
高齢者サポート・たまり場事業	
延長保育	

<b>健康と福祉</b>	延長保育・ふれあいホールを利用して学童保育
	災害時の高齢者、特に一人暮らしの声かけ
<b>定住と交流</b>	一方でイベント回数を増やすと、役員等の負担が多くなり苦情が出る
	集落で月1回イベントをしているが参加者は限られている
	高齢化で受け入れ側も活力がない。負担に感じている(イベント倒れ)
	集落では『色々な事業にはもうついて行けない。ひっそりと暮らしたい』という意見が多い
	イベントでは定住につなぐ方向は出ない
	棚田交流事業の難しさ
	各事業について行けない
	イベント倒れになっている
	1～2回は来るが途中から続かない。
	夏、草刈りには遅い時間に来るので、作業が出来ない
	重労働させると続かない
	東中山集落も3分の1近くが空き家になっている
	空き家がどんどん増えている
	空き家は増加しているものの、所有者が都会から時々帰ってきており譲渡は難しい
	空き家が増えているがそれを活用できるか？
	空き家が増加しても無償提供とかしにくい現状がある、墓地の問題など
	跡継ぎが不在
	空き家の譲渡は困難である。持ち主の了承が得られない
	改造、改築費の問題がある
	高齢化や空き家が増えることによって、交流が少なくなる
	平谷集落では現在小学生2名なので交流の場も少ない
	棚田交流事業(ボランティア・オーナー制度)を数年前から実施しているが、減る一方である
	高齢者の増加からゲートボールなどのグループ遊びも崩れてきており相互のふれあいが無い
	集落内にあったゲートボールの仲間も途絶え、高齢者の個別化が進行している
	交流に犠牲が伴うと途中で崩壊する
	都市部との交流を企画してみたが賛同者は次第に減少する、原因は田舎に負担が大きいことである
	地域おこしの目玉のとなるものがない
	最初は飛びつくが継続出来ない
	棚田の担い手、後継者が全くいない
	若者は少なく人口はだんだん減少している
	老人会では60～64歳のグループづくり(若者会)がされている
	高齢により行事、出役等集落活動が出来ない、NPO、ボランティア等に頼めるか
	僻地には、行政は金を入れず、住居を中心部に移して定住場所とすると行政も安くつく
	地域から出て共働きなどができない
	貸し農地についても荒れてからでは貸せない、世話も地元が奉仕しないと続かない
	棚田のオーナー制実施中
農機具の使い方指導	
高校を卒業と同時に子どもたちは都市部の大学に進み、一旦都市部の生活に慣れるとなかなか帰ってこない	
若者の働く場所の確保	
子供を近くに住ませたいが働き場所がない	
子供の教育を優先してきた都会流文化が、若者を外部へ誘う結果を招いている	
学生となると都会に残り地元に戻る人が少ない、子供に進言できる村になることが望ましい	

<b>定住と交流</b>	共働きをする場合、延長保育や学童保育がないので、ある場所に若者が行ってしまう
	若い世代が少ないので子供も少ない
	生活基盤（働・学・遊）が弱い
	江川だけの問題ではないが産業（働く場）がない
	子供が都市部へ流出、帰省はするが定住はなし
	若者が減少する
	若者を田舎へ帰らすには「農業法人」をつくり「国民保険、年金」から脱却しないとだめ
	無理のない計画と参加しやすい内容を考えること
	無理矢理誘うのではなく集まりやすいよう内容を考える
	餅つき交流、ペーロンでの活動を参考に
	定期化してゆく
	閉じこもり防止のためにイベント交流
	交流の世話をするグループの労働に対する対価を考える
	多少の土産が時には渡せるよう
	インターネットによる宣伝
	定住を進める
	空き家の数などの把握
	戦前～戦後の時代に戻す（集落の交流）絆を！
	農業を利用した体験型の交流受け入れ
	他地域の人との交流を進める
	まず、個人で栗拾いに呼び、少しずつ交流を広げたいと思っています
	ウォーキングコースも、インターネットでの情報発信が大切、町のホームページなどで
	他の地域づくり協議会と交流し違った角度からの意見を参考にする
	従来からの文化交流を継続する、昔からの知り合いの更なる親交を深める
	都市部との交流はうまく相手を利用する方策とする
	淀集落では「観音山」のハイキングコースを作りたい意見がある
	町有地に宿泊用貸し施設、貸しロッジをつくり、近くの水田に野菜作りで交流
	大木谷の棚田と道満塚と晴明塚を連動させて見せる
	佐用町のホームページに晴明塚、道満塚をもっとアピールしてもらおう
	江川の看板を付けてもらう
	このたびの水害で佐用の名前が知れたがこれをチャンスと捉え活動につなげる
	若者との交流の中で知恵と経験を伝達する
	関係者による話し合いを持つ
	リーダーを育成し「話し合い」をする
	退職者の新規就労、65～70代
	10年前ぐらいから、数字上は限界集落だが、お年寄りなりに農業や自治会活動を頑張っている
民泊のすすめから交流を広げる、農地の集約、作物別の地図、農地提供のシステムづくり	
耕作を断念した農家から、その年の内に土地の無償提供を受ける組織をつくり、貸農園等の活用を企る	
もぎ取り販売畑を作り交流につなぐ	
指導員をつくる	
田畑の空き地を確保	
荒廃地、放棄地にしないことが大切	
世代間の継続（連携）を視野に入れて計画、目標を見直す、時代の流れに乗せる	
通院や買い物などが不便な所は、どうしても定住が難しいが交通手段で解決できると思う	

定住と交流	姫路方面への通勤時間の短縮、公共交通機関の整備。
	町中心部への交通を充実することにより定住を図る
	宿泊場所、民泊の推進
	空き家の貸し出し、買取り
	空き家を交流拠点として、宿泊所に活用する
	空き家と一緒に農地を貸せる
	敬老会の開催
	ふれあい喫茶の開催
	豊かな自然環境と歴史資産を活かし、ハイキングコースを設定して都市との交流を図る
	ハイキングコースの設定と情報の発信、「田舎ツーリズム受け入れ空間事業」の実施
	自然の薬草を利用した薬膳料理（試行）
	宿泊希望者はゆうあい石井等を紹介する
	佐用チャンネル、サンテレビで放映を数回行う
	菜の花を植えて道満塚と晴明塚を中心にアピールする
	甲、乙大木谷の道路拡幅と駐車場、看板等の整備
	晴明塚、道満塚の近くのトイレの整備をする
	インターネットの積極的な活用
	江川の宝場所づくり、ハイキングコース+小イベントを考える。各集落の持ちまわりも考える
	もぎ取り販売畑を作り交流の基盤づくり。一石二鳥ではないか
	体験観光農園として「もぎ取り農園」。販売につなげる
	歴史・自然資産を活用したハイキングコースの設定と情報発信
	元気な退職者で生産者グループを作る
	学童保育、託児所を考える
	小学校を活用して都市部の私塾等に「民泊+学習合宿場所」を提供する
	林間学校・山村留学・体験農業
	「山菜の里」農園でふれあい交流を行う
	町営住宅で定住促進→少子化対策
	働く場の確保
	自分で栽培する作物を提供して土産物化する
	晴明塚と道満塚の周りに桜、つつじ等を植える
	学童保育、早朝、夕方の託児所を考える
	「江川の子供を育む会」をつくり、公的保育、教育からはずれた時間を担当し、安心して預けられる若夫婦の補佐をする・・・6～10名のグループ活動
	自然の薬草を利用した薬膳料理（試行）
小学校を活用して都市部の私塾等に「民泊+学習合宿場所」を提供する	
長期休暇を活用して都市部の子供を江川小学校に受け入れ、「体験学習」「能力伸張学習」など、特色ある教育を展開し交流の拠点とする	
江川地域のつくる料理教室と体験「味わい」教室をつくり、都市との交流拠点とする（ふれあいホール）	
教育と文化	小学校の児童数の減少が心配される
	少子高齢化率が高い
	江川小学校も児童数がだんだん少なくなっている
	子供が少ないため、同世代間で遊べない
	地域の歴史などの教育がなされていない
	江川小学校児童の減少



<b>教育と文化</b>	江川小学校児童数 48 人、保育園児童数(1~5 歳) 23 人
	複式学級 1・2 年生
	若者が少ない
	複数の子がいる家庭がほとんど→家庭数少ない
	少子化が進み友達との遊びの場・時間がない
	生活圏の拡大により地域への関心が薄れている
	若者が少なく獅子舞が出来ない集落が出来るとなると伝統文化の継承が難しくなっている
	自給率の低下などでよもぎ団子やくず米、栗を食べる食文化が失われている
	伝統文化を維持する、祭、獅子舞ができない集落あり
	本物の味を伝える食文化
	食文化、自給率の低下、よもぎ団子、くず米、栗
	将来、佐用に統合することも考えられる
	若者の定住促進
	子供を育て易い環境、財政支援
	少人数でも活力ある取り組み
	児童数の増加への方策
	とりあえず、都会の子供を呼び込む
	安全安心活動と文化福祉活動で心豊かな人づくりを
	生きがいのある生涯学習を行う
	世代間交流を通じて、江川の伝統文化やふるさとを学び、江川に誇りが持てるようにする
	若い世代の地域への愛着心を高める
	集落でのイベントや、秋祭りなどの文化を伝える様にしている。
	故郷の良さをアピールする教育の実施
	食育、地産地消
	農業で世代間交流、いも掘り、くり拾い
	江川ふれあい子ども教室
	放課後広場
	山村留学による子どもの受け入れ
	登校拒否児を預かる施設
	高年大学出前講座・人権学習・地域の歴史探究の実施
玉落学園の開催・充実	
保存会の立ち上げ	
働く場の確保	
町営住宅で定住促進→少子化対策	
<b>産業振興</b>	農業後継者がほとんどいない
	農業だけでは生活出来ない、若者が農業離れをしている
	限界集落をこえて消滅集落に近づいている
	若者が農業ばなれして後継者がいない
	若者が都会は出てしまう
	若い人が農業をしたがらない
	(どこの) 集落共少子高齢化
	若者の農業ばなれ
	働き場所がない
	高齢化

<b>産業振興</b>	高齢化
	将来の展望が見えない、現状を考えること
	これから出来なくなる、土地や放棄地の受け皿がない、集約のシステムがない
	農作業の後継者不在
	中山間地直接支払い制度資金につかえない部分がある、耕地水路農道交流事業以外は無理
	江川での農業は耕作地の広さから見て、限られた人数しか成立しないのではないか
	米作りをしても採算が合わない。棚田を守っているだけ
	米がいちばん作りやすいため、他の品目を作る気になれない。また、それだけの元気もない
	農業はしんどい、米が安い
	企業が少ないため働き場がない
	圃場が狭い、草刈り場所が多い
	通勤可能な仕事をし、「休日利用農業」でしか農業は維持できない
	高齢化と過疎により農林業が衰退
	儲かる産業がない
	獣害対策に頭を悩ませている
	鹿、猪の害が多く作る作物がない
	米は安い上、獣害被害が拡大する一方
	生活道路からの進入
	防護フェンスの保守が不十分
	特産品を作り出すこと
	昔から養蚕、たばこ、ピーマン、ぶどう、くり等いろいろやってきたが、ブランド品に至らず
	江川では栗・ピーマン・茶など失敗例が多い。病虫害、高齢化、省力が進まない。
	農業経営の不振から、農業後継者が減少している中で、今後、農業者の高齢化によりさらに休耕地が増加することが予想され、ますます農地環境の崩壊につながる恐れがあります
	林業の担い手不足により、杉、桧の植林の手入れが出来ていない
	山が荒れて陰となり田畑が荒廃している
	端々から荒廃している
	農地・地先の管理が困難
	棚田をどうするか
	草刈り場が多い
	圃場がせまい
	友人、知人、親戚の方で耕作意欲のある人に農業を担っていただく（一部実施）
	都市部の方で意欲のある人を指導し、農業を担っていただく、農業塾など
	外国人労働者の受け入れ（研修制度の活用）
	老人でも労働力として活動してもらえる
	住みよい江川づくり
	通勤可能な地域に職場確保
	売れる農産物の生産・安全、安心の付加価値をつけた農産物など消費者のニーズを把握し、販売に直結した農産物の生産を行う
	農業を利用した体験型の交流受け入れ
	今の所、解決する方法は見つからない
	行政、JA、地域住民が連携を強化する必要がある
食の安全・安心で、江川に合った野菜産地化に取り組む	
自由収穫田畑を作って料金を取って都市部の人に開放することで営農をする	

<b>産業振興</b>	営農学を面白くしかも利益の上げた成功者の話を聞く会を開く
	休耕農地を利用する農業
	都会からすこしでも観光に来てもらうようによびこむ
	大木谷の棚田を守ろう
	地域農業再生対策事業の活用、補助率 75%
	圃場整備をする
	棚田の観光地化を図る
	1 集落の 3, 4 人でやれる農業の体勢をつくる
	米をもっと高く売る
	今後も元気な間はできる範囲で続けていくしかない
	今回の災害で全国的に佐用町の名が知れたがこれをチャンスととらえて活動につなげる
	害のない自然農業での野菜作りに努力する
	獣害を軽減する取り組みをし、耕作意欲を高め耕作放棄田を減らす
	獣害対策が一番、集落毎に電気柵、フェンス等で完全な対策をする
	集落内にいる獣を一掃して欲しい
	猪や鹿に被害対策を集落毎でなく江川地域全体で考えてみる
	捕獲による頭数減を図る
	生活道路からの進入防止対策。もっと狭く区切る
	都市部の方で意欲のある人を指導し、農業を担っていただく
	江川の地場産業の向上、もうかる農業、子供、都会からのリターン者に職をもたせよ
	子供を地元に残す方法考える、農業が儲かる方策を考えること、個人の工夫に頼る
	「食の達人」事業に乗る、旬の作物を旬に出す
	失敗例を原因別に調査してみる。普及所やJAでかつて推奨した特産品等について、石井みどり、朝霧茶、江川栗など販売していく
	「食の達人」事業に乗る、旬の作物を旬に出す
	現在、江川地域内で野菜づくり等に力を入れている農家に呼びかけ「もぎ取り農園」をつくる。都市部に呼びかけ、自分で選んで採ることで収穫作業を省き、また多少高価でも売れる。・・・これも組織づくりが必要。さらに、家庭で余った物の出荷の可能性をつくる
	60～70 歳相手の作物づくり、出荷の世話役、相手さがし→JA、町
	各農家の自己消費用野菜畑の余剰品を、共同出荷するグループに委託して少しでも有効利用するシステムづくり
	寒冷地、高原を活用したものづくり→交流を通じてブランド化へ
	里山の雑木林整理活用事業として「きのこ村」をつくる シイタケ・ヒラタケ・ナメコなどのキノコを「原木栽培」することで産業化可能
	「山菜の里」をめざし、既に放棄地となっている傾斜地の田や畑を、当地で育つワラビ・ゼンマイ・ヤマブキの栽培を考える。特産品として大阪市場で十分対応できる
	地場産業の育成。農林業特産物の育成
地元にあった農業の研究を行い、良質なブランド物をつくり出すこと	
失敗例を原因別に調査してみる。普及所やJAでかつて推奨した特産品等について、石井みどり、朝霧茶、江川栗など	
安全・安心なものを食べられる	
ゆず、いちじく、栗の加工について	
「棚田を守ろう隊」を作り管理する	
「中山間」「農地水対策」の有効活用	

これまで度重なる地域づくり計画委員会やワーキング会議では、たいへん多くの貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。

今回策定する計画に全ての意見を反映することはできませんでしたが、この貴重な意見を記録して、江川地域の将来へ活用していきます。

## 【参考資料2】江川地域づくり計画策定の経緯

この「江川地域づくり計画」は、地域の多くの方の意見を計画づくりに反映させるために、江川地域づくり協議会に地域づくり計画委員会を設置して、地域の現状や課題を整理し、その地域課題の解決の方策について討議検討し、同委員会において策定されました。

地域づくり計画委員として各組織から総勢62名のみなさんに参加していただき、多くの意見をいただきました。

### <計画策定までの経緯>

#### 平成20年

- 12月22日 江川地域づくり協議会運営委員勉強会  
(講師:島根大学作野先生 内容:計画策定についての勉強会)

#### 平成21年

- 4月26日 江川地域づくり協議会定期総会  
(江川地域づくり計画の樹立決定・地域づくり計画委員長を選任)
- 5月17日 本部役員による江川地域づくり計画策定準備会議
- 8月23日 運営委員会で各組織の代表による準備会議開催を決定
- 9月26日 各組織の代表による江川地域づくり計画準備会議  
(地域づくり計画委員の選出と小グループに分かれワークショップ形式で討議を行うことなど、今後の進め方を決定)
- 10月31日 第1回ワークショップを開催、課題を中心に討議
- 11月21日 第2回ワークショップを開催、方針を中心に討議
- 12月12日 第3回ワークショップを開催、具体的な事業内容など総合的に討議

#### 平成22年

- 3月 4日 本部役員によるワークショップの意見を素案とした「江川地域づくり計画」原案づくり会議を開催
- 8月 2日 地域づくり計画委員に「江川地域づくり計画(案)」の原案を郵送
- 8月10日 地域づくり計画委員会  
(「江川地域づくり計画(案)」の審議調整及び決定)
- 8月22日 江川地域づくり協議会運営委員会  
(「江川地域づくり計画」の承認)

【参考資料3】地域づくり計画委員会委員名簿

NO.	部会	氏名	選出区分	集落名
1	統括	木村政照	福沢自治会長・協議会会長	福沢
2		井谷典司	西河内自治会長・協議会副会長	西河内
3		永本大作	センター長	末包
4		稲田幸博	末包自治会長・地域づくり計画委員長	末包
5		久保正彦	豊福まちづくり活動推進員	豊福
6	自然環境	岡本憲一	乙大木谷自治会長	乙大木谷
7		茅原武	東中山まちづくり活動推進員	東中山
8		山下通利	平谷まちづくり活動推進員	豊福
9		秀谷光則	江川の里づくり協議会	大島
10		小松弥恵子	福祉連絡会代表	福沢
11		孝橋政子	玉落ボランティア	仁方
12		小河雅子	玉落の里を偲ぶ会	福沢
13		山田秋夫	農会長	豊福
14	東影絵梨香	保育園保護者会	大島	
15	安全・安心	江見勝二	大島自治会長・まちづくり文化部長	大島
16		岡本英雄	仁方自治会長	仁方
17		東口和弘	甲大木谷まちづくり活動推進員小学校 PTA 会長	甲大木谷
18		平野好一	淀まちづくり活動推進員	淀
19		永本美穂	いずみ会	末包
20		岡本敏幸	中学校 PTA 会長	豊福
21		蔭山哲博	江川の里づくり協議会	淀
22		岡本裕子	福祉連絡会代表	豊福
23		小林貴美代	玉落ボランティア	西河内
24		木村尚枝	老人クラブ	福沢
25	健康と福祉	山口清	地域交通部長	大島
26		吉永功	東中山自治会長・健康福祉部部長	東中山
27		稲田豊秀	末包まちづくり活動推進員	末包
28		岡本敏行	乙大木谷まちづくり活動推進員	乙大木谷
29		岡田徳雄	老人クラブ	福沢
30		岡野弦太	保育園保護者会会長	豊福
31		山本智志	江川の里づくり協議会	福沢
32		山本たづ子	福祉連絡会代表	西河内
33		稲田萬寿美	いずみ会	末包
34		久保清登	中学校 PTA	豊福
35	定住と交流	岡野俊昭	豊福自治会長・交流広場部長	豊福
36		東口仁郎	甲大木谷自治会長	甲大木谷
37		小河充	福沢まちづくり活動推進員	福沢
38		大内秀世	豊福まちづくり活動推進員	豊福
39		蔭山晴雄	玉落の里を偲ぶ会	淀
40		西崎光男	老人クラブ	淀
41		西沢千里	いずみ会	福沢
42		安岡林	江川の里部会	豊福
43		岡野一秀	中学校 PTA	豊福
44		岡野力	保育園保護者会	豊福

NO.	部会	氏名	選出区分	集落名
45	教育と文化	小林辰夫	平谷自治会長・健康福祉部副部長	豊福
46		三輪弘樹	福沢まちづくり活動推進員	福沢
47		春名千明	大島まちづくり活動推進員	大島
48		西崎和子	玉落ボランティア	淀
49		蔭木早苗	江川小学校校長	豊福
50		塚崎博行	佐用中学校校長	本位田乙
51		土井つゆ子	江川保育園園長	豊福
52		岡繁明	玉落の里を偲ぶ会	東中山
53		岡本明	小学校 PTA	乙大木谷
54	産業振興	有本長治郎	淀自治会長・評議会副会長	淀
55		岡本敏和	仁方まちづくり活動推進員	仁方
56		井上孝司	西河内まちづくり活動推進員	西河内
57		福田秀明	農会長代表	福沢
58		茅原耕一	農会長	東中山
59		繁延義昭	江川の里部会	甲大木谷
60		蔭山久子	江川の里部会	豊福
61		春名孝男	特産物企画	豊福
62		半田健	小学校 PTA	大島

### 平成22年度江川地域づくり協議会運営委員会名簿

役職名	氏名	集落名	選出区分
協議会長	木村政照	福沢	
副会長	有本長治郎	淀	
センター長	永本大作	末包	
自治会評議会長	木村政照	福沢	
副会長	有本長治郎	淀	
運営委員長	岡野俊昭	豊福	
副委員長	有本長治郎	淀	
まちづくり文化部長	稲田幸博	末包	
副部長	広畑寛	大島	
健康福祉部長	岡本憲一	乙大木谷	
副部長	安岡恭宏	豊福	
地域づくり計画委員長	稲田幸博	末包	
交流広場部長	岡野俊昭	豊福	
地域交通部長	東口仁朗	甲大木谷	
副部長	西口知時	仁方	
広報委員長	岡本敏和	仁方	
書記(記録)	押田清司	西河内	
会計	東口和弘	甲大木谷	
監事	押田清司	西河内	
監事	金高勝	福沢	
運営委員	岡野俊昭	豊福	自治会長
〃	安岡恭宏	豊福	〃
〃	西口知時	仁方	〃
〃	木村政照	福沢	〃
〃	押田清司	西河内	〃
〃	東口仁朗	甲大木谷	〃
〃	岡本憲一	乙大木谷	〃

運営委員	有本長治郎	淀	自治会長
〃	稲田幸博	末包	〃
〃	国広勇人	東中山	〃
〃	広畑寛	大畠	〃
〃	久保正彦	豊福	まちづくり活動推進員
〃	大内秀世	豊福	〃
〃	尾崎恵浩	豊福	〃
〃	岡本敏和	仁方	〃
〃	平田一彦	福沢	〃
〃	金高勝	福沢	〃
〃	井谷博文	西河内	〃
〃	東口和弘	甲大木谷	〃
〃	岡本敏行	乙大木谷	〃
〃	平野好一	淀	〃
〃	稲田豊秀	末包	〃
〃	宝内芳克	東中山	〃
〃	道上純孝	大畠	〃
〃	笹田鈴香	大木谷	議会議員
〃	井谷典司	西河内	玉落学園
〃	永本美徳	末包	たのしい会
〃	有本宏郎	淀	老人クラブ
〃	福田知一	福沢	小PTA
〃	稲田琢視	末包	中PTA
〃	押田浩樹	西河内	保護者会
〃	山田秋夫	豊福	農会長会
〃	岡野晃	豊福	消防団
〃	村上伸博	福沢	子ども会
〃	尾崎伊佐男	豊福	囲碁会
〃	岡本貴美子	豊福	詩吟
〃	筏由美子	豊福 江川小学校	学識経験者
〃	吉田和彦	豊福 江川小学校	小学校
〃	土井つゆ子	豊福 江川保育園	保育所
〃	岡繁明	東中山	玉落の里を偲ぶ会
〃	稲田豊秀	末包	江川ゴルフ会
〃	小松弥恵子	福沢	江川地区福祉連絡会
〃	秀谷光則	大畠	江川の里づくり協議会
〃	国広勇人	東中山	青少年を育てる会
〃	井谷典司	西河内	スポーツクラブ 21 えかわ
〃	山口美佐江	大畠	愛育班
〃	西崎和子	淀	玉落ボランティアグループ
〃	長谷川公信	本位田乙 佐用中学校	中学校
〃	西崎洋美	淀	民生委員
〃	西崎光男	淀	農業委員



## 参考資料4 取り組み事業の状況

- ・ 江川地区散策マップ
- ・ 江川ふれあいホールの活用
- ・ 江川ふれあい号の運行
- ・ コスプレイベントの開催





～編集後記～

平成21年4月の江川地域づくり協議会定期総会で地域づくり計画委員長に任命されました。

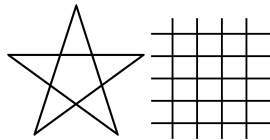
江川地域は、少子高齢化による急激な過疎化が進み、地域力の低下が心配されているなかにおいて、地域づくりの指針となる「江川地域づくり計画」づくりに、責任の重さを感じ、身の引き締まる思いでした。

しかし、地域の方々の多大なご協力と貴重な意見を得て、また、佐用町役場のお世話になり、ここに、「江川地域づくり計画」を策定することが出来ました。厚くお礼申し上げます。

今後は、本計画を『安全で安心して、楽しく生きがいを持って暮らせる江川の里づくり』の指針として、江川地域づくり活動の推進に寄与することを願うものであります。

平成22年12月

地域づくり計画委員長 稲田幸博



## 江川地域づくり計画

平成22年12月

江川地域づくり協議会

〒679-5316 兵庫県佐用郡佐用町豊福285-4 (江川地区文化センター)

TEL0790-84-0660